

野球部員コメント①

赤鬼の春始動

赤鬼の春Ⅱ 6

1月26日に第90回記念選抜高等学校野球大会(センバツ)の招待校が発表され、本校の9年ぶり4度目のセンバツ出場が決定した。ここからは3号にわたって野球部員のセンバツに向けた想いを紹介する。

嶋崎 詠君

センバツが決まったと聞いて、とてもうれしかった。春に向けて、これから2か月間頑張らないといけないと感じた。今は怪我をしているので、早く治して本調子に戻りたい。

吉岡康起君

出場が決定したときは素直にうれしかった。これから2か月間は、チームメイト同士で声をかけ合ったりして会話を増やしていきたい。甲子園で一勝できるように頑張りたい。

草野 快君

選ばれるかどうかギリギリ

速報新聞

キマグレ

発行所

彦根東高等学校

新聞部

彦根市金亀町4番7号

中川 響君

のラインだったので、選ばれたと知ったときはすごくうれしかった。秋季大会以降は、大会で課題が見つかったバツティングを意識して練習してきた。甲子園の舞台に立てるように頑張りたい。

21世紀枠で膳所が選ばれたと知ったときは少し不安だったが、自分たちが今までやってきたことを信じて待っていた。冬の間は筋力をつけるための練習や、ケースに応じて守備や走塁の判断をする練習を頑張ってきた。せっかく選んでいただいたので、自分たちの野球をしていきたい。

野寄重太君

秋の大会ではバツティングが不調でチャンスの面で打てないことがあったので、それからは打撃の練習を中心に頑張ってきた。これからの2

朝日晴人君

か月間も今までやってきたことを変わらずに頑張っていきたい。選んでいただいたからには、優勝を目指して全力で頑張りたい。

岡上士門君

発表の日はとてもドキドキしていたので、決まったときはほっとした。やれることをしっかりとやって、試合を平常心で戦えるように自信をつけていきたい。先輩方の一勝を超えるためにチーム一丸となって頑張りたい。

川瀬隼大君

自分たちの代は先輩方と比べて体が小さいので、ご飯をたくさん食べたりトレーニングをしたりと体づくりを頑張ってきた。甲子園に出場してく

増屠翔太君

るチームはレベルが高く自分たちのパワーでは勝てないので、練習のときから頭を使う野球をやっていきたい。

北村 駿君

冬の間はピッチング技術の向上と体づくりを意識してきた。センバツまでに調子や技術を上げていき、夏よりもレベルアップしたピッチングをしたい。選んでいただいたので、試合でベストを尽くせるようにこれからの練習に臨みたい。

永井結登君

主務としてチーム全員とコミュニケーションをとって、みんなから信頼してもらえよう意識してきた。センバツに出場する高校には体が大きい選手が多く力では勝てないかもしれないが、頭を使った野球を心がけて強豪校たちに対抗していきたい。

センバツに行けると信じて、一つひとつの練習に今までよりも丁寧に取り組むようにしてきた。憧れの舞台でプレーすることができるので、少しでも楽しめるようにしていきたい。